

令和5年度第2回一宮市立図書館協議会会議録（要旨）

- 1 開催日時 令和6年2月21日（水）午前10時～11時53分
- 2 開催場所 中央図書館 6階 多目的室1
- 3 出席者 委員10名、事務局8名
- 4 傍聴者 0名
- 5 議題
 - (1) 市立図書館の利用状況について
 - (2) 利用者意見の調査結果について
 - (3) その他
- 6 開会（事務局が開会を宣言）

活力創造部次長挨拶
協議会会長挨拶
- 7 会議（要旨）

（事務局）会長が議長となり以後の議事進行を行います。

（事務局）議題（1）「市立図書館の利用状況について」資料に基づき説明。

（議長）質問や意見がありましたらお願いします。

（委員）移動図書館の貸出が増えているという説明がありましたが、その理由はどのような事が考えられると思いますか。

（事務局）移動図書館ですが、市内の小学校13校に行っておりまして、コロナ禍の時にはバスの中に児童の皆さんが密集するのがよくないという事で、学校の利用がだいぶ少なかったということがありました。コロナ禍が明けましてだんだん前のやり方に戻ってきたということが一番大きい理由ではないかと思います。

（委員）子どもについてはそうだが、先ほどウェブで予約をした人が移動図書館で借りると説明があったが。

（事務局）雑誌の受け取り数が増えているというのは純然たる事実ですので、そもそも雑誌とAVについてはほたる号に載っておらず、基本的に予約の受け取りのみのため、予約の受け取りをされる方が増えたという説明をさせていただきました。

（委員）おそらく先ほどの説明であったようにウェブで予約すると受け取り館を指定できるので、自分にとって便利な所で利用するという事で、既存館が遠くて使えないと言う人にとっては、ほたる号のステーションがしっかりすればそれはありがたいという事になると思う。だからそのあたりが今後、今までなかなか利用しづらい人には、こういう借り方ができますよとっとアピールするポイントなのでは。

（委員）私もこの本が読みたいという時はウェブで予約をして確実に手に入れやすいところに行って、さらに返すときは一番近くに返すというスタイルです。便利なところで借りたいという話で、出張所とかを指定して借りたり、逆に出張所で返すというシステムはありますか。

（事務局）出張所は、返却ポストはありますが、貸出となると、例えば貸出の機械を置いたりとか、人を手配したりしないといけないので、各出張所で貸出という

のは難しいです。

(委員) 一宮って広いし、出張所とか公民館っていう単位で、連区で動いている事が多いじゃないですか。だから今後の展望としては図書館を立派に大きくするだけじゃなく、どこでも利用が出来るような目線で進めていくといいのでは。出張所というのでも何か用事があるし、公民館も活動で行くから、そのへんを上手に利用すれば、ある物でやっていけるのではないかと思います。

(事務局) 図書館のシステムとして、どうしても貸出する時に端末機が必要で、その操作を出張所の方をお願いすることは難しいです。あと返却についても出張所は取次という形になりますから、図書館に返ってきて機械にかけるまでは、貸出状態という事になります。そのあたりご理解いただいて、よろしくお願いいたします。

(委員) 現状はよくわかりました。ありがとうございます。

(委員) 移動図書館って機動性があるじゃないですか。138タワーとかよくお祭りとかやっているから、子どもにとってはそういう、何かのイベントで、移動図書館が出ると喜ぶのでは。

(議長) ちょうど今年度、9月の木曾川の一豊まつり、あそこでリサイクルの本の配布をした時も、えらい人気でしたね。そういったイベントの会場も図書館の方も色々考えてやっています。新しい本じゃないですけどそれでもやはり子どもさんたちはそういった物に興味はある。また折を見てイベントにそういった出店をしていただければ。

(委員) さっき電子書籍の報告があったんですけど、今学校でもタブレットを使ったり、家では親御さんのタブレットやスマホ使っている子も結構います。そこで図書館の電子書籍が見れるという事も、何か上手くPR出来ると、親御さんもこれなら子供に見せても大丈夫と安心すると思います。それがきっかけで、本を学校で借りてこようということにもなりました。電子書籍を案外知らない人が多くて、何かそれもPR出来るといいと思います。リサイクル本の配布も中央でもどこでもやっていますよね。だけど皆さん、そういうイベントがあることを知らなくて。広報とかでPRしているんだけど、そこまで見ないというのが現状で、惜しいなと思いました。

(委員) ほたる号の事ですけれど、そのステーションの利用者というの、今やはり高齢化が凄いの、本を借りに行くことも出来ないし、さっきの電子書籍のスマホの操作とかが出来ない。だけど本を読みたい。でも回数とかそういう場所が少なすぎて。いろいろ調べている中で、全国的にネームライツみたいにスポンサーを付けてバスを走らせている市町村があるというのを聞きました。ほたる号って名前じゃなくて、バス自体にスポンサーの名前が付いていて、その宣伝料でお金を貰って走らせている。そうすると過疎化している所に行っても、それと何か抱き合わせで機能的に図書館だけじゃなくって、保健師さんをそこに乗せるとか、色んな仕組みがあるらしく、なかなかすぐには難しいと思いますが、今、高齢化、少子化の方も問題ですが、お母さんは若いから何とか連れてくることのできる。だけど取り残されているのは高齢者なのかなと。でもその高齢者の方のほうが、さきほど言われたように

いっぱいコミュニティはあるので、何かそういう所のサークルや公民館とかと連携してできるといいです。高齢の方のほうが本にすごく馴染んでいて、文字を見るのが、今の若い方よりうんと好きなんですよ。だからそういう人たちの方が人数が多いから、何かその救いの手が高齢の方に届くといいなと思います。

(委員) 憩いの広場とかお出かけ広場とかそういう所が凄く増えているから、そこにちょっとでもお持ちすると意外とヒットして。じゃあ今度こんなのが欲しいですって紙で書いて渡されるとかね。

(委員) もちろん子どもたちにも大事なんですけど、そういう高齢化の地域には、今もお話があったので、何かの形で考えていただけるとありがたいというか、策はないのかなという感じです。

(事務局) リサイクル本の活用という所に着目して、例えば放課後子ども教室などに図書館のリサイクル本を配付する仕組みはありますが、例えばいきいきセンターだとか、ご高齢の方たちが足を運ばれる施設にも配本活用はできると思います。しかし今問題にあげられたのはそこにも行くことができない方たちですよ。お歳を重ねて出ていくことが困難な方となってくると、やはり電子書籍なのかなと。ただそうするとそれもなかなか触る事が出来ない方がいるということです。ネーミングライツは目から鱗でした。活力創造部の施設いくつかでネーミングライツをやっております。ただ、今頂いた意見、その移動する媒体に対するネーミングライツというのは、そういった意識を持つ事は大切だと思いました。

(委員) 昨日たまたま読み聞かせ会だったんですけど、保育園のお散歩の子たちが、20何人先生と一緒に来てくださって。あれは来館者数に入っていますか。

(事務局) 来館者に入っています。

(委員) 図書館はいいところなので、何か保育園と連携して、お散歩のプログラムの中に図書館を入れたらいかがでしょうかみたいなことを提案したら、今まさに4月からの計画を立てていると思うので、良いような気がします。来館者の子どもが増える。そんな難しい事じゃない、お金もかからないし。保育園の子も歩けるので。保育園は今ないんですか、そういうツアーは。

(事務局) 特に保育園が見学というのはないです。近隣の民間の保育所がちょっと見に来たいという事で事前に連絡があって来館されるということはありませんが。

(委員) 小規模の人数が少ない所で、動ける範囲でやられたと思うんですけど、保育園で一塊になると非常に大勢で、それを引率する保育士の負担、そこへ連れていくまでの安全面を考えると、本当に小規模の所だったらまだ良いのですが、少し難しいかなと思います。小さいなら小さいなりの良さを活かして保育していただければ子どもにとってプラスになる事はたくさんあるかなと思います。

(議長) では議題の(2)「利用者意見の調査結果について」事務局から説明願います。

(事務局) 議題(2)について利用者アンケート結果に基づき、中央図書館→ウェブ版→尾西図書館→玉堂記念木曾川図書館→子ども文化広場図書館の順に説明。

(議長) ただいま4館の方からご説明をいただきましたが、今年度に関してはネットのアンケート調査というのを導入したという事で、紙ベースでの配布枚数

を減少させたというようなご説明がございましたが、それにしてもちょっと去年と比べると相当数数が減っており、あまり参考にならないと率直な意見も感じました。これは利用者の方の、率直なご意見を聞かせつかくの場ですので、もう少しウェブというのも多分時代の調査方法ではあるのかもかもしれませんが、まだウェブになれていない方がいらっしゃるかと思います。やはり紙ベースを基本に考えていただきたいという風に考えております。それを踏まえまして皆さんご意見ありましたらどうぞ。

(委員) さきほどぜひ紙でという話がありましたが、紙は紙で良いと思うんですけど、ウェブの良さでやっぱり家に帰ってしっかり考えて書けるから、それはそれで良いと思いますので、両方選べるのか、それとも片方だけなのか。後でもう一回家に帰ってから、あそこを追加したかったという時に追加できた状況のアンケートなのかを聞きたいです。

(事務局) 紙については当日そこで記入していただく、ウェブについては、QR コードを印刷してある紙を渡して、そのQR コードを読み込んで、各自端末で答えていただくという事で、どちらか排除することは出来ないの、可能です。

(委員) ありがとうございます。

(議長) もう一つ確認ですが、子文だけのご自由にお取りくださいで、後の館は全て一応手渡しをしたという認識で良かったですか。それにしても木曾川が妙に配布数が少ないなという。

(委員) この配布数も大事なんですけど、来館者数を併記してもらったらいかなと思いました。

(事務局) 紙としては180枚用意して、それを全部配り終えています。

(委員) という事は、来館者180人はいたということですよね。逆に回収率が悪いということ。

(委員) でも中央図書館の場合は、渡している所と書く所がすぐ直結していたので、私は5階の所だったので分かりやすかったです。貰ったら直ぐ入れるボックスと、書くスペースが。

(議長) なるほど、だからこれだけ回収率が高い。

(委員) 子どもエリアが5階なので、育児関連の本も5階にあったら嬉しいという意見がありますが、これはやっぱり難しいですか。もし実行しようとしたら本のラベルとか全部変えなきゃいけないんですよね。凄く切実な意見だと思うんですが。

(委員) 私もそれは前から何回も言っているのですが、育児書を、やはり子どもを見ながら、子どもに絵本を読みながら、そこでお母さんが一緒に本を読めるというスタンスを取っていただいた方が、ありがたいんじゃないかなと。

(事務局) まずラベルを変える必要はないと思います。5階という場所にデータを変えればそれで良いのですが、そもそも棚がないというのが一番大きい理由です。棚が無いので、例えば返却の本などを置くブックトラックと呼んでいる物を5階に置いて、テーマ展示のような、そういうやり方でなら可能かもしれないという事で、来年度以降、中央図書館が委託している業者が考えると話しています。

(委員) ただでさえ子どもがうるさいから図書館へ行けないと思っているんですよ

ね、小さい子連れてお母さんたちが。大丈夫ですか、こんな小さいうるさい子連れて行ってもって聞かれるくらいなので、やっぱり 1 フロアで用事が済んだらとても嬉しいと思います。

(議 長) 今 5 階のエレベーター横に、リサイクル本のコーナーがありますが、あいう形でも良いので、やはり目立つ所にそういったコーナーを設けていただくといいと思います。大半は持つてくのは難しいかと思いますが、そういった小さなお子さんを持つお母さんに、興味を持っていただけそうな本を選書して配架していただくというのも一つの手かなと思いますので、よろしく願いいたします。

(委 員) アンケートのこの結果については、どのように公表はされているんですか。

(事務局) アンケート結果につきましては中央図書館ですと、入口の所に紙で昨年度の物が掲示してあります。あとは図書館のウェブサイトでも公表しています。また今回の分につきましては取りまとめ次第、掲示する予定です。

(議 長) 自由意見欄にあるような利用者の方の意見は些細な事でもやはり出来る事から改善をして、より良い図書館にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは最後、議題 (3) のその他について、事務局からお願いいたします。

(事務局) 次回の会議ですが、令和 6 年の 9 月頃に令和 6 年度第 1 回を予定していますので、よろしく願いいたします。

(議 長) それでは貴重な意見いただきましてありがとうございました。以上をもちまして第 2 回図書館協議会を終わります。ありがとうございました。